



発行 矢部川をつなぐ会
HP http://www.yabegawa.net/
Blog http://yabegawa.jugem.jp/
事務局/山村塾・小森
〒834-1222 八女市黒木町笠原
9836-1 えがおの森内
山村塾 気付
TEL/0943-42-4300
mail/info@yabegawa.net

第5号

～矢部川新聞は「山から海まで未来につなぐ 矢部川をつなぐ会」が発行する流域の情報誌です～

いままでに
取り組んできたこと
1 矢部川景観プロジェクト
2 矢部川ゴミプロジェクト
県との協同事業による流域の優れた景観の紹介と保全。
(ラットパス「ゆつらーつと矢部川」の実施。6回)

いま、取り組んで
1 ミニ講座の開催
2 火曜日の夜19時から1時間半ほど、八女市のおりなす八女にてミニ講座
3 柳川
4 矢部川流域の産物
5 矢部川源流の話
6 矢部川の源流の話
7 小型水力発電
8 廻水路を行なってきました

矢部川ニュース
1 今年も、矢部川河口域、支流の沖の端川河口域の希少種のクロツラヘラサギ(4羽)、ズグロカモメ(15羽)、ツクシガモ(100羽)が飛来しました。
2 支流塩塚川で、一昨年の20数年ぶりの群落生息が確認され、昨年に続き今年も、シチメンソウの芽立ちが確認されました。
3 シチメンソウは、大授搦の様に管理されたものではなく、どこからか流れ着いたものが定着しているものと思われる。すぐに消滅の心配はないが、人が立ち入り、踏みつぶしたりしないようにすることが必要であり、また、周りにゴミ(空きポリビンや発泡スチロール容器等)が散乱しているのを、まずは、このゴミを無くすことから始めなければならない。幸いなことに、地元が中心になって保護活動の機運が高まって

シチメンソウは、その名の通り、淡緑色からもみじの様な鮮やかな赤い色まで季節によってその色が七色に変わる事からシチメンソウと名付けられた塩生植物である。
このシチメンソウが、一昨年の秋に20数年ぶりに塩塚川で発見され、昨年にも下流域の300〜500m程の両岸7、8か所に10m〜100mの群生が生育し、今年の1月にも発芽が確認された。
このシチメンソウは、大授搦の様に管理されたものではなく、どこからか流れ着いたものが定着しているものと思われる。すぐに消滅の心配はないが、人が立ち入り、踏みつぶしたりしないようにすることが必要であり、また、周りにゴミ(空きポリビンや発泡スチロール容器等)が散乱しているのを、まずは、このゴミを無くすことから始めなければならない。幸いなことに、地元が中心になって保護活動の機運が高まって



秋には鮮やかな赤い色に!



芽立ち

期末ぎりぎりの、1年ぶりの矢部川新聞の発行となりました。
いろいろ詰め込み過ぎで読みづらい点は、乞う容赦です。(松富士)

八女森林組合

代表 田島 富士雄
連絡先 〒8341216
福岡県八女市黒木町桑原2922
TEL 0943420302

NPO法人
グラウンドワーク福岡
(矢部川事務所旧川口邸)
代表 河野 泰治
連絡先 〒8341104
福岡県八女市上陽町下横山445
TEL 0943542242

この法人は、22世紀の我々の子孫に良好な環境を継承するために、住民、企業、行政の協力を得て、持続的な地域の社会及び自然環境改善活動を行うことにより、地域社会の安定と社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

H P:http://www.h3.dion.ne.jp/~gw-fuku/index.html
Mail:gw-fuku@d3.dion.ne.jp

山村塾

代表 宮園 福夫
連絡先 〒8341222
福岡県八女市黒木町笠原98361
TEL 0943424300

立花会(りっばなかい)
代表 松延 均
連絡先 〒8340002
福岡県八女市立花町新松240
TEL 0943370076

八女水の会
代表 牛島 孝行
連絡先 〒8340023
福岡県八女市津江505
TEL 0943230683

市民の水文化や河川浄化への関心と理解を高め、矢部川、星野川をはじめ八女市内を流れる山の井川、中の井川、花宗川の河川浄化への積極的取り組みに寄与することを目的とする。
日本野鳥の会筑後支部
代表 松富士 将和
連絡先 〒8390853
福岡県久留米市青峰11429
TEL 09424451150

エコネットちくちく
代表 荻野 安子
連絡先 〒8330021
福岡県筑後市大字溝口13613
TEL 09034122771

NPO法人有明海
代表 工藤 徹
連絡先 〒8320068
福岡県柳川市城崎町189
TEL 0944755555

蒲池堀割委員会
代表 木下 好久
連絡先 〒8320006
柳川市東蒲池6541
TEL 0944735316



# 矢部川の野鳥

日本野鳥の会筑後支部  
松富士将和

矢部川流域は、釈迦・御前岳の1,000mを越す山地を源流に、矢部川、星野川が山地を縫って流れ、八女丘陵と呼ばれる丘陵地に至り、ここには大きな湖沼・ダムが点在し、やがて中流域となつて緩やかに広がる平野になり、星野川が矢部川と一緒に下流。下流域は潮の満ち引きがある汽水域となり、泥質の干潟が生じシギ・チドリ等の水鳥が増えてきて、日本最大の干潟の差が生じる有明海に注ぐ、野鳥にとって環境に富んだところだ。



イカル・まめわり

上流域には、ヤマセミ、カワガラス、ミソサザイなどの溪流の鳥、中流域にはハン、オオバン、カイツブリにミサゴやトビなどのタカ類の姿が見られる。湖沼には、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモなどのカモ類。里山には、イカル、シメ、ツグミ、シロハラ、ルリビタキ、ジヨウビタキ、アオジなど冬鳥たちや、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、メジロ、コゲラなどの留鳥たちが。潮の満ち引きがある汽水域の下流には、干潟にはシギ・チドリ類、サギ類、カモの仲間がいます。

最近では、支流沖の端川域では、希少種のクロツラヘラサギ、ズグロカモメ、ツクシガモ等が見られます。特筆すべきは日向神のブツボウソウ、熊野速玉神社の大桶のフクロウ、グリーンピア八女のおシドリです。ブツボウソウは、10数年前までは、毎年、ダムの上流部の赤い橋に営巣して、ブツボウソウと言えは日向神でした。それが、残念ながら、全く見かけません。地元椎窓さんによると、「餌となるコガネムシが減ったから

なりました、これにより有害な化学物質のなかで育まれた体と精神は、いままでは違った人間をつくり、社会不安となり未来への展望が危ぶまれる様になりました。家だけに限らず多くの生活用品が化学製品となり社会問題にもなっています。

## 森の恵みを再び活かす

NPO法人  
矢部川流域プロジェクト  
理事長 石永節

戦後の家作り。昭和20年代までの家作りは地元材料を使った自然な家作りでした。

木と紙と土から出来た家は人の五感と精神を育み人を成長させてくれる家でした。

休むと言つ字は人が木に寄り添うと書きます。混じりけのない材料での巣作りであり、澄み切った空間こそが人の健全な体と精神を育む家だったのです。

30年代になると資本主義流通の体制が整い新建材による家作りが主流と



だ」と言うことです。フクロウは、昨年に続き、今年も雛が巣立ちました。街中でフクロウが巣立つことは珍しく、大事にしたいものです。オシドリは、上流の湖沼、河川で冬に数十羽が確認されています。オシドリは警戒心が強い鳥なので、そうと見守って行きたいものです。



カワセミ

## 矢部川流域の探鳥のポイント、探鳥地

### ①探鳥のために

時期としては、初夏・5月のバードウィークの頃は、南から渡ってきた鳥たちの繁殖の時期で、鳥たちの囀りが楽しめます。冬は、北から寒さを避けて渡ってくる冬鳥たちを里山や市街地の林でも身近に見かけることが出来ます。矢部川・星野川のカモも冬の探鳥の楽しみです。

春・3、4月と、秋・9、10月は、夏鳥と冬鳥が混在します。矢部川の下流域では、シギ・チドリの渡りの

時期で、思いがけない鳥との出会いがあります。

### ②観察のポイント、おすすめ探鳥地

- ①矢部川・星野川上流域・ヤマセミやカワガラス、ミソサザイなどの溪流の鳥
- ②釈迦・御前岳ウシ・タカや、高山性の鳥の宝庫です。
- ③日向神・冬季のカモ類、セキレイ類、カワガラス、ミソサザイなどの水辺の鳥も。
- ④グリーンピア八女・冬のおシドリ。森林セラピーコース鳥のコースも楽しんで。
- ⑤飛形山ウシ・タカ類や、有明海の眺望も楽しめます。
- ⑥星野・星のふるさと公園・野鳥の森では、シジュウカラ、ヤマガラを身近に。
- ⑦星野川・ほとりと石橋の館、北川内公園周辺水辺の鳥やシジュウカラの仲間。
- ⑧矢部川上流域から中流域にかけての釜屋橋周辺(惣川内堰から唐ノ瀬堰)は、一年中水鳥たちがいて、(最近では冬のおシドリも)楽しめます。
- ⑨矢部川中流域・船小屋中之島公園周辺から筑後広域公園は、春・3月



オシドリ

自然環境が豊かであるかどうかは、鳥たちがいるか、いないかでわかります。森や林が元気で、たくさん実がなり、昆虫も多いたるには、いろんな種類の鳥たちがいます。また、水がきれいで、魚やカエルなどが多い川や池にはいろいろな水鳥がいます。そんなことから、鳥は環境のバロメーターといわれています。あなたたちのまわりには、



クマタカ



インヒヨドリ

中島漁港のハマシギ

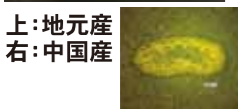
どんな鳥がいるか。どんな鳥が増え、どんな鳥が減ったか、気をつけて見て下さい。そこから、自然環境の変化、自然の保護について考えましょう。

### おわりに

鳥も人も地球の仲間。かけがえない自然を、子どもたちの明日に残したい！あなたの力が、地球の自然とのちを守ります！どうぞ、皆さんもぜひ、近くの公園や、寺社林、矢部川に足をのぼして、鳥たちとの出会いを楽しんでください。

これは地元材料を使うことで、環境、健康、地域に貢献する家作りの証となり、私達はこれを皆様を知って頂くためにNPO法人を設立致しました。ここに代表的な物を紹介します。

●八女杉。杉の学名はクリプトメリアジャポニカ。隠された日本の財産」の意



上:地元産 右:中国産

●イ草と畳。流域のイ草は八代に次ぐ生産地。しかし安い中国産が生まれ、地元生産者の廃業が続いています。

●貝殻漆喰。矢部川河口の大和町、以前は何軒もの漆喰工場がありました。漆喰の産業と同様に廃業が続く一軒だけです。ビニールクロスや合板の出現で余儀なくされたのです。しかしこれらの材料でシックハウス、化学物質過敏症などが発症し社会問題となりました。この病状の解決策として貝殻漆喰は最高の壁材です。今はや

存続が危ぶまれています。でも、品質に於いては雲泥の差があり中国産の比ではありません。写真でも分かりますように、地元産はまん丸で芯がつかず、中国産は楕円形で芯がスカスカ。更に地元産は有機栽培のイ草。従いまして健康の面でも遙かに優れています。今の家作りは、和室が少なく、若干高値でも建築費には響きません。又、畳の芯(畳床)は、合鴨農法の稲藁を採用。今使われている畳の芯は、石油系ボードでイソシアネートと言う物質が含まれてます。畳の縁は久留米緋です。

り、数年を経て沈殿堆積し、広大な干潟を作り出してやがて陸化していった。すなわち、有明海は今のようにならなくなった。そして、環境は互いに水を融通するために次々とつながり、大規模化および細分化し、無数の網の目のような堀割景観が現れてくる。まちが出現するのは戦国時代の今から五、六百年前ではなからうか。

蒲池、立花、田中そして再び立花と戦国大名等は城郭を整備するとともに、領国経営に文字どおり治山治水の大事業に着手してきた。

## 水郷柳川の風景と水との関わり

柳川市観光協会  
顧問 立花民雄

柳川はもとと海であった。柳川を覆う地層は、数万年前に大爆発噴火した阿蘇山の火山灰土が有明海を埋め尽くしてきたものといわれている。有明海に注ぐ大小の河川と潮汐作用により、火山灰土がやがてパウダー状の微粒子とな



白秋祭



柳川城の総郭くるわは沖の端川と塩塚川に挟まれ、さらに南面は有明海の干拓堤防で囲われた形にできている。

その両川は、元来源流のない川で潮川と呼ばれ、日本最大の干満の差がある有明海の入江である。日常的に干潮では潮川は干上がり、満潮では城下は水面下となる。

そこで沖の端川をこの地方の主力河川である矢部川に繋ぎ、さらに人口堀「二ツ川」を経て城下へ真水を導水するようにした。

この柳川の生命線である水源の矢部川は、全長約六十キロメートルしかなく、急峻で保水力に欠け、ひとたび大雨となると最下流の柳川はすぐに洪水となり、干天が続けば早魃となる。

有明海は六時間毎に干



干拓の風景



柳河城

満を繰り返す。城下では、満潮のときは水面下で排水ができず、大雨のときは、大小の堀割や水田に水没ぎりぎりになった。ふり水を貯め、じつと我慢をして、潮が引くと一気に排水する。早魃では水路を橋などでV字形に絞って急峻にし、生活用水がよんで腐らないように、酸素を取入れる工夫もされている。地域全体で水の過多、過少を融通しあう「もたせ」のシステムが機能している。



舟遊びと洗濯

年月が経つと、海岸の地先には堤防を越すほどの干潟が堆積してくる。江戸時代は新田開発の意欲も

あり、放置すれば危険となるため盛んに干拓事業が行われてきた。鱗片状の干拓堤防が景観をなしてゆく。当然のことながら水路はこの干拓地にも拡張してゆく。

昭和の高度経済成長期には、上水道の普及、水量低下、家庭排水、農業散布などが重なり、堀割は富栄養化となり水草が異常繁殖し、汚濁し一部ではゴミ捨て場と化した。それまで生活の根幹を成していた堀割が、飲み水どころか虫も消え、詩も消え、子供たちの遊び場としてさえも見捨てられた。

使う水も捨てる水も数百年も同じ堀割を使ってきたが、用水と排水を区別しだすと、瞬く間に堀割は荒廃していった。

しかし、柳川は再生しの復活劇は、映画「柳川堀割物語」として有名になった。水郷柳川とは、今も昔も水の豊かな地というより、大変苦勞しながら水を確保し、大地を開いてきた人々の関わりで築いてきた、高度な水文化が今も息づいている「まち」である。

### 矢部川の自然

国土交通省河川環境保全モニター 木庭 慎治 (こげしんじ)



矢部川流域

今から数百万年前から数万年前の間に、人類は地球に広がっていった。そして、人類は豊かな淡水が一年を通じて供給される場所に永住した。その後、だいたい1万4千年前に世界四大文明と呼ばれる4つの大文明が、人類の歴史において最初に起こり、以降の文明はこの流れをくむと考えられている。四大文明は、四大河川文明ともよばれ、メソポタミア文明(チグリス川とユーフラテス川)、エジプト文明(ナイル川)、インダ

ス文明(インダス川)、黄河文明(黄河)そのどれもが豊かな大河の流域で発達した。これらの文明は大河の畔で独自の気候と風土に裏打ちされた独自の文化を紡ぎ出し、今に受け継がれている。言うなれば、それぞれの文化の特殊性は独自の気候と風土によって形成されており、人々の世界観や人生観に多大な影響を与えている。こういった意味でも、私たちの気質や世界観を再認識する上でも私たちの生活している川について学ばねばならないと考えている。また、川の重要性は文化を醸し出したという点以外に、全ての生命は水無しでは生きることができないことと農作物および私たちが生活に利用する水は、降水によって得られた河川水と地下水以外に存在しないことから、生命を育む水と捉えることで川の重要性はさらに際立つ。

3点が考えられる。①の効果として、地球の温度変化を極めて小さくしている。②の効果は、水は固体である氷より比重が大きな液体の水が沈んでしまうために、海の温度を一定に保ち、深海底でも海水は凍らない。このことも地球の温度を一定に保つために、無くてはならない。③は、生体内の化学変化は水溶液中でのみ進行すること、生命活動の結果生じた老廃物は、水に溶かして効率よく排出されている。他にもまだまだ生命現象における水の役割は果てしない。

また、一人あたりの使用可能な水資源量(降水量)は、世界の平均が7044t/年(日本では、3337t/年)と世界の50%以下である。さらに、福岡県南部に生活する私たちは、幹川流路延長が60km、流域面積が647km<sup>2</sup>の狭い流域面積の矢部川でも、上流域の釈迦岳周辺は福岡県で最も雨が多く、年降水量は、2000mmを越える。日本の平均降水量が、1700mmであることを考えると、豊かな水資源に恵まれていることが分かる。ところが、この降水は春々夏の間集中しており、降った雨が、私たちが使うことなくそのまま海に流れ込んでしまうこともない。そこで、ブナをはじめとする落葉広葉樹の



釈迦夏岳山頂のブナ

植生の重要性に気付くことになる。ブナの森は世界遺産に登録された白神山地では有名であるが、福岡県でも5ヶ所、原生林が残っている。何れも標高800m以上で、戦後のスギ植林事業から外された場所である。

また、御前岳北側のシオジ林が残っており、このシオジ林の水は筑後川に流れ込む。このような落葉広葉樹の葉は落葉後クルッと丸くなり、空気を含むフカフカの腐葉土を形成するのに役立っている。このフカフカの腐葉土が驚異的保水力の秘密である。また、フカフカの腐葉土は空気をたくさん含んでおり、カビやキノコの仲間の生育には欠かせないものであり、落葉広葉樹とスギ植林地では林



御前岳北側斜面のシオジ林

床の匂いが全く違う。落葉広葉樹の林床では菌類の匂いに混ざり良く耕された畑の匂いがする。もしかしたら、好気性細菌が有機物を分解しているのかも。このような源流の環境は生物多様性の維持にも大きく貢献している。最近の研究では腐葉土中のフルボ酸(優秀な鉄キレート剤)には鉄をイオンにする働きがあり、岩石中の鉄(阿蘇などの火山岩に多い)が海にたどり着くために必要であるという。鉄イオンは、植物が光合成をするためにはなくてはならない。つまり、鉄は海藻が育つ環境には無くてはならない。水環境の富栄養化を緩和するために、水中のリンや窒素を消費する植物が生育する環境は必須である。ムツゴ

ロウやシチメンソウをはじめとする固有種の宝庫である有明海の生物多様性も矢部川の現在の環境により維持されているのかもしれない。ムツゴロウもシチメンソウ同様にその分布から大陸起源の生物と考えられており、日本海が拡大する以前には九州と大陸が地続きであったことを物語るられる貴重な生物である。言うまでもないが、生物が多様であるために、多様な環境が必要である。このように多様な生物が息まちは、生育していることは、有明海を取り巻く環境が多様であることを物語っている。そして、この多様な環境は、筑後地方で川に根ざした文化を継承してきた多くの人々の叡智と川を愛する人々の努力の結晶である。

最後に、20年ぶりに福岡県にシチメンソウが帰ってきてくれた。今年も1月15日にシチメンソウの実生を確認した。2月18日には赤く色付いた本葉も確認している。今年も塩塚川ではシチメンソウを楽しむことが出来そうだ。

### 小水力発電

講師 馬場水車線香場 馬場 猛

初めは、水車大工の野瀬秀拓さんをお願いしていましたが、ラオスの水車発電の取付予定が延びてラオスに行かれたため、八女市上陽町で水車線香をつくっておられ、野瀬さんの発電用水車試験に協力されている馬場さんにピンチヒッターをお願いしました。

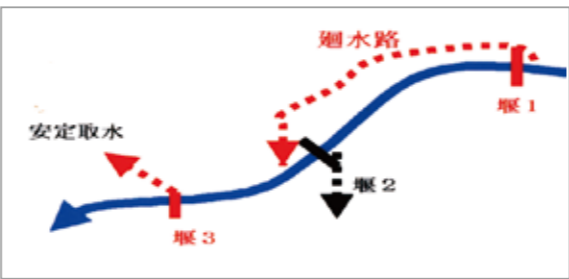
馬場さんは、矢部川流域では2件だけとなった水車による線香づくりをされており、天然の杉とタブノキだけでつくられた線香は、おだやかな香りが癒されると好評です。水力発電は、安定した水量があること、水利権の問題が無いこと。幸い自分の所は水量があり、水利権の問題も無いので、線香水車の下流に設置して貰っている。水路が長く、余裕があるので、テスト機をあと1,2台設置することは可能だが、あくまで自分自身は場所提供者で、試験は、機材の手配から、設置、





黒木堰。矢部川右岸下流から

廻水路は完成してから130年たっていますが、今も現役で山肌を縫い、あるいは人家の脇を通り、小さな滝となって堰に落ち、また、水路となつて流れ、田畑を潤しています。廻水路は、



廻水路を世界遺産に

「世界に誇れる矢部川の宝」です！ \*廻水路については、2009年の矢部川楽校で一度講演して頂き、フットパス・ゆつらーつと矢部川でも3回廻水路コースを歩きました。今回のミニ講座は、世界遺産に登録の足掛かりにしようと、再度勉強会を開きました。秋には、また、花巡りコース歩きを企画しています。

松富士報告



花巡廻水路には、トンネルや眼鏡橋も



三ヶ名廻水路第一番目の隧道

「やべがわ鍋」を作り出してください。 \*山形の芋煮会は、新米の餅といも煮を食べて収穫を感謝する刈り上げ行事を起源とし、毎年9月の

時調整も必要である。と言つて、まだまだ解決すべき問題もいくつかあるようです。 松富士報告

やべがわ鍋は、矢部川流域の特産品を具材や調味料として用い、味わいながら、流域の農産物について学び、考えようと企画した「郷土料理」です。

第1日曜日に山形市の馬見ヶ崎河川敷で行われている「日本一の芋煮会フェスティバル」で広く知られるようになります。 (材料は、里芋と牛肉、ねぎ、こんにゃく、しょうゆ、隠し味の地酒(但し、同じ山形でも地域によつては、牛肉が豚肉に、味も醤油と味噌など異なる)です。



中流域バージョン



下流域バージョン



全流域バージョン

【流域の具材】

Table with columns: No., 市町村名, 鍋の具材 (①, ②, ③), 調味料など, その他の特産品 (①, ②), 備考. Lists ingredients like corn, potatoes, and local specialties for different river sections.

\*味は、芋煮と同じように、味噌味と、しょうゆ味(澄まし汁)のどちらでも好みで仕立て、隠し味には、地酒を入れる。干しエビや干しハゼクチの出汁でつくと上手さ倍増です。(太字は基本的に入れるもの)

\*具材には、柳川地方で食べられている水芋の茎(旬の夏以外は干し水芋の茎)は、ぜひ加えたいもの。また、お茶を練りこんだ団子(小麦粉も地場産)をいれた・だご汁も必須。

\*各流域バージョンでは、太字の特産品をベースに、基本的な食材を加え(コンニャク、サトイモ、シイタケ、ネギ、ニンジン、)等の食材を加えてつくる。(味は、味噌、醤油、どちらでも可)

【流域の特産品(JA資料から)】

Table with columns: No., 農産物名, 生産地. Lists products like eggplants, nashi, and various flowers from different municipalities.

新聞誌 毎月発行 1,925円(税込) 送料別 3,735円(税込) 消費税 167円(税込) 送料別 1,100円(税込) 送料別 50円 第3種郵便物認可

が出来る ↓電気のない山間地での発電も可能 ●デメリット 設置に手間がかかる( )

1. 風力に比べ 少ない発電量のため採算性がとり難い 2. 落ち葉やゴミなどが流入するため整備が欠かせず、増水

時の調整も必要である。と言つて、まだまだ解決すべき問題もいくつかあるようです。 松富士報告



直径5mの大きな水車(八女あれこれ23より)

水車の技発電に生かせ

2011.7.25

福岡県久留米市御井町の水車大工・野瀬秀拓さん(60)が発電用の水車を考案し、練香づくり用の伝統的な水車が回る同県八女市上陽町の用水路で23日、実験を始めた。新たに製作した水車は直径90センチ、幅60センチの円筒形で、出力600ワットのミニ発電所だ。原発事故で自然エネルギーが見直される中、野瀬さんは「ローカルエネルギー」として水車が広がればと期待している。

八女の水路で実験開始



発電用の水車を造った野瀬秀拓さん(23日午後1時40分、福岡県八女市上陽町、三輪亭)

ラオスで製作「日本でも」

水車は古くから、精米用やソバの製粉に利用されてきた。野瀬さんは、30歳の時に同県広川町に住む水車大工の中村忠幸さん(故人)に師事して修業。広川町水原にある遊楽園にある「川古の水車」を、熊本県南阿蘇村の観光施設「あそ風の郷」の「水車」に改装した。水車は、全国の水車大工も「わすかに減った」。

発電には毎秒100リットルの水量が必要。いまの時期は毎秒約20リットルあり、発電用の水車を据え付けると、勢いよく水しぶきを上げて回った。発電機は自動車を改造した12リットルのものが、近い将来、大学の研究者の協力で性能のよい発電機に換えて実用化に向けたテストをする。蓄電池と組み合わせて、エアコンや冷蔵庫など一般家庭の電力を賄うこともできるという。

御境川(矢部川)の廻水路

講師 馬場紘一 (八女市文化財専門委員)

矢部川は、右岸の久留米領、左岸は柳川領で、御境川と呼ばれています。

この矢部川の両岸には、10の堰と、両岸に交互に総延長24kmに及ぶ7つの農業用水路があります。これが江戸時代初期から末期にかけて、久留米藩と柳川藩によってつくられた廻水路です。

廻水路とは、取水した水を、下流の相手側の堰を迂回して、さらにその下流にある自分の所の堰へ、安定的に用水を廻水するための水路です。

一般に、水田を潤すためには、灌漑面積の約15倍の山地面積が必要だといわれています。しかし、矢部川では、僅か4倍程しかありません。このため、この貴重な水を出るだけ自領に引き込もうと、堰を設けたり、水路を引いたりしてきました。



花宗堰付近の航空写真

廻水路がつくられたのは、久留米領の黒木堰が1664年(350年前)〜柳川領の三ヶ名堰が1794年。最後の久留米領花巡堰が1884年(130年前)の20年間、営々とくり続けられました。今も現役で水を流し、筑後平野を潤し続けています。